【樹木の部屋】

ハクチョウゲ（アカネ科ハクチョウゲ属　Serissa japonica ）

和名：ハクチョウゲ(白丁花)　別名：ハクチョウボク

英名：Tree of a thousand stars

リンドウ目　常緑低木　　原産地：中国、台湾、インドシナ

花言葉：純愛　　花色：白、桃

← 写真-１　ハクチョウゲ
撮影日：2020 年 05 月 13 日
撮影場所：大和郡山市
郊外にて
撮影者：M　さん

→ 写真-２　ハクチョウゲの小枝
撮影日：2020 年 05 月 13 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　ハクチョウゲの花
撮影日：2020 年 05 月 13 日
影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-４ ハクチョウゲの蕾
撮影日：2020 年 05 月 13 日
採取場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

→ 写真-５ ハクチョウゲの葉(表)
撮影日：2020 年 05 月 13 日
採取場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

→ 写真-６ ハクチョウゲの葉(裏)
撮影日：2020 年 05 月 13 日
採取場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

よく枝分かれして高さ 50～100cm になります。5～7 月にかけ、葉腋から出る短枝に花径が 1cm 程度の白または淡紅色の花を咲かせます。花冠は漏斗状で５深裂し、毛があります。花には２つのタイプがあり、両種とも雌蕊と５本の雄蕊がありますが、雌蕊が長くて雄蕊が短くてほとんど見えない種と、雌蕊が短くて雄蕊が長い種があるそうです。

葉も小さく、鋸歯がなく葉先が尖ります。比較的耐陰性があり半日陰でも育ちますが、日当たりが悪いと花つきが悪くなるそうです。

強い刈り込みにも耐え、細かい枝が容易に分岐し、病虫害にも強いため、低生垣や庭木としてよく栽培され、造園での修景用緑化灌木や盆栽、園芸などで扱われます。刈り込み仕立てが普通ですが、自然樹形仕立てにすることもあります。

ハクチョウゲは短命な樹木で 10 年も経つと株が衰えて、だんだん枝枯れが目立つようになります。あらかじめ挿し木で株を作っておき、古株が枯れたら新しい株と植え替えるようにすればよいそうです。

ハクチョウゲには一次生長(春に新しく伸びた枝が 7 月頃にいったん生長を止め

る)と、2 次生長(夏に再び枝を伸ばし 10 月頃に生長を止める)の年に 2 回、枝の生長期があります。刈り込みは春から秋なら随時可能ですが、例えば春の枝がよく伸びる時期に刈り込んでも、一次生長の終わり頃にはまた枝が伸びていて樹形が乱れていることがあります。一次生長と二次生長、それぞれの終わり頃(だいたい 7 月の上旬と 10 月の上旬)に乱れた枝葉を刈り込むようにすると頻繁に刈り込みをせずに整った樹形を保つことができます。

ハクチョウゲの名前の由来は、花が丁字型の白い花を付けるところから来ていて、熊野川や四万十川流域に自生する同じアカネ科の落葉低木「シチョウゲ(紫丁花・イワハギ)」に対応してハクチョウゲと名付けられたそうです。

園芸品種にフタエザキ(二重咲き)ハクチョウゲ、ヤエ(八重)ハクチョウゲ 、紫がかった白花のムラサキハクチョウゲなど花に変化のあるものや、葉に白い縁取りの入るフイリハクチョウゲがあります。変種のダンチョウゲ〔var. crassiramea〕は節と節の間が詰まっているのが特長だそうです。これらの中でも、斑入り種がよく出回っているそうです。